

原稿の書き方

(平成27年7月1日)

1. 原稿

原稿は、コンピューターソフトまたはワードプロセッサを使用し、A4縦判、横書きにして、活字は12ポイント程度、1ページ27行程度で作成する。

(1) 和文論文

第1ページ：ランニングタイトル、表題、著者名、英文表題、英文著者名、所属または住所（括弧内に英文）、現職員でない著者については、学生であること、卒業学科名なども記入、またダガー（†）により別刷り請求先を、メールアドレスを付して示す。

第2ページ：英文要旨、英文キーワード。

第3ページ以降：本文、図の説明（英文）、図、表（英文）。原則として脚注を使わない。

(2) 英文論文

第1ページ：英文ランニングタイトル、英文表題、英文著者名、英文所属（所属のない者は英文住所）、現職員でない著者については、学生であること、卒業学科名なども記入、またダガー（†）により別刷り請求先を、メールアドレスを付して示す。

第2ページ：英文要旨、英文キーワード。

第3ページ以降：本文、図の説明、図、表。原則として脚注を使わない。

最終ページ：和文表題、和文著者名、和文要旨。

(3) 情報

表題、英文表題、本文、著者名、英文著者名、所属、英文所属（所属のない者は住所、現職員でない著者については学生であること、卒業学科名なども記入）。

(4) 書評

書名、著者名、出版年、出版社、価格、ISSN番号、本文、評者名、所属（所属のない者は住所、現職員でない著者については学生であること、卒業学科名なども記入）。

2. ランニングタイトル

和文原稿では20字以内、英文原稿では語間空白分を含めて50字以内とし、本文第1ページ最上行に記載する。

3. 表題

表題は簡潔に論文の内容を表すようなものにする。原則として副題や継続論文であることを示す番号の付いた表題などはつけない。

4. 著者名、著者情報

連名のときはコンマ「,」で連ねる。ただし、ローマ字の様式は、姓及び名のそれぞれの頭文字をキャピタル、後をスモールとし、2名の場合は「and」で、3名以上連名のときは最後の名は「and」でつなぐ。著者名が複数の場合、右肩に番号をつけ、所属を指示する。別刷り請求先はダガーで指示する。

例) 和文原稿

ランニングタイトル：アルテミアのゲルマニウム代謝

アルテミアによるゲルマニウムの吸収と代謝

山川一郎¹, 太田次郎^{2†}, 山下三郎³

Germanium Uptake and Metabolism by *Artemia salina*

Ichiro Yamakawa¹, Jiro Ota^{2†} and Saburo Yamashita³

- 1 水産大学校水産学研究生 (Graduate student, National Fisheries University)
 - 2 水産大学校食品科学科 (Department of Food Science and Technology, National Fisheries University)
 - 3 〒759-6595 下関市永田本町 2-7-1 (2-7-1 Nagata-honmachi, Shimonoseki 759-****)
- † 別刷り請求先 (corresponding author) : *****@fish-u.ac.jp

例) 英文原稿

Running title: Germanium Metabolism of *Artemia*

Germanium Uptake and Metabolism by *Artemia salina*

Ichiro Yamakawa¹, Jiro Ota^{2†} and Saburo Yamashita³

- 1 Graduate student, National Fisheries University
 - 2 Department of Food Science and Technology, National Fisheries University
 - 3 2-7-1 Nagata-honmachi, Shimonoseki 759-6595
- † corresponding author: *****@fish-u.ac.jp

5. 英文要旨, キーワード

本文と別ページにし, 研究目的, 方法, 結果, 考察, 結論をできるだけ簡潔な英文で, 改行しないで 200 語程度 (1 枚以内) にまとめる。要旨は本文と独立に理解できなければならないので, 図表, 文献等の引用をしない。要旨の下に 1 行あけて 4 ~ 6 語の英文キーワードを記入する。その中には, ASFA Thesaurus (<http://www4.fao.org/asfa/asfa.htm>) から選んだ 5 語以内のキーワードを含めるものとする。

6. 本文

本文の記述は原則としてポイントシステムとはせず、緒言（英文の場合 Introduction），材料と方法（Materials and Methods），結果（Results），考察（Discussion），謝辞（Acknowledgement），引用文献（References）などの見出しをボールド，センタリングでつける・小見出しが必要な場合は，ボールド，左寄せとする。それぞれのセクション間は1行あける。句点は，和文論文では“。”を，英文論文では“.”を使用する。読点は，ともに“，”を使用する。

7. 謝辞

科学研究費補助金等の学内外の競争的資金を使用した場合や，受託研究及び契約に基づく共同研究等の場合には，その旨も謝辞に記載する。

8. 図と表

表題，説明，内容を英文で書く。図表番号はボールドとし，“**Table 1**”，“**Fig. 2**”などのように書く。表は横線のみを必要最小限用いて作成する。表の上に簡潔な表題をつけ，末尾にはピリオドをつけない。表に付属する説明や注は表の下に書く。図の説明は図の原稿と別葉にする。図と表の原稿は本文と別葉にし，その挿入箇所を本文原稿の右欄外に赤で指定する。原則として，同じ内容のものを図と表の両方で表すことはやめ，どちらか一方にする。図版（Plate）は用いない。刷り上がりの図の大きさは横幅が7.5または15cm程度となるので，図の大きさはそれぞれの2～3倍に書く。図の原稿は，大きさをA4判までとし，必要により厚手の台紙に貼り，原稿が汚れないように薄紙でカバーする。

9. 文献

本文の関連箇所に引用の順に，“うわつき”で“ $Young^{2, 3)}$ ”または“ $Young^{2-5)}$ ”のように引用順に一連番号をつけ，一括して末尾に文献の項にまとめて記載する。著者が複数の場合，2名までは姓を連記し（小林，品川¹⁾あるいはShinagawa and Kawasaki²⁾）とし，3名以上の場合は筆頭著者の姓に“ら³⁾”あるいは“et al.⁴⁾”を付して記載する。句読点の箇所に引用番号をつける場合は，句読点の前に置く。

雑誌名の略記法は慣用法（原稿の日本自然科学雑誌総覧，Chemical Abstracts，Biological Abstracts など）に従う。欧文誌名はイタリックとする。水産大学校研究報告は水大校研報（英文では *J Nat Fish Univ* とし，ピリオドを打たない）とする。同じ雑誌がならばときは原則として同誌（*ibid.*）と略してはならない。巻番号はボールドにする。

例) 雑誌の場合

- 1) 小林政志，品川五郎，川崎太郎：水産機器の強度設計に関する研究．*海洋機械*，**18**，25-35（2005）
- 2) Kobayashi M, Shinagawa G, Kawasaki T: Strength of materials used in fisheries machine. *J Fish Machin*, **28**, 1258-1267（2005）

例) 単行本の場合

- 1) 小林政志：水産環境の浄化技術．水産大出版会，下関（2002）
- 2) Kobayashi M, Yamasaki A: Design of fisheries machinery. Suisandai Press, Shimonoseki（2005）
- 3) 小林政志，山崎明弘：水産機械の設計．海野五郎（編），*機械工学事典*．水産出版会，東京，20-50（2005）
- 4) Kawasaki A, Kimura M: Corrosion of stainless in sea water. *In: Seaworle A (ed) Handbook of*

corrosion. Academic Press, New York, 410-419 (2005)

例) 訳書の場合

- 1) Sokal R R, Rohlf F J: 生物統計学 (藤井宏一訳), 共立出版株式会社, 東京 (1983): Introduction to biostatistics. W. H. Freeman and Company, San Francisco and London (1973)

10. 用語

原則として“学術用語集”(文部科学省)及び“英和・和英水産学用語事典”(恒星社厚生閣)に準拠する。

生物名については、和文原稿では標準和名をカタカナで書き、続けて学名をイタリックで入れる。ただし、いわし旋網、かつお節などのような場合にはカタカナを用いない。欧文原稿では生物名の次に学名を入れる。微生物名などはそのまま学名を用いる。原則として命名者を省くが、特に必要のある場合は命名者をローマンで入れる。この場合は、命名者名を略記してはならない。また、属名や種名を最初から略記してはならない。本文中で学名の表示を必要以上に重複することは避ける。

和文原稿中の外来語は、原則としてカタカナとする。言語を用いる場合、人名、地名、ドイツ語の名詞、固有の商品名などを除きスモールで記載する。同一論文中で同一物名については和洋語を混用してはならない。英文注の日本語はローマ字表記でイタリックとする。

11. 用語

単位の記載についてはSI単位{“物理化学で用いられる量・単位・記号”(日本化学会標準化専門委員会監修, 講談社), “国際文書第8版国際単位系(SI)日本語版”(独)産業技術総合研究所 軽量標準総合センター 訳・監修)などを参照}を尊重する。物理量記号はイタリック, 単位記号はローマンを標準とする。略記するものについては複数でもsをつけない。その他各種の記号を用いるときには明確な説明をつける。分数を含む数式は2行取りとする。変数, パラメータ, 統計量などを表す記号はイタリックとする。

化学関係の記号は次例のように字体を区別する。

イタリックとするもの: *o*-, *m*-, *p*-, *N*-, *O*-, *S*-, *n*-, *s*-, *prim*-, *sec*-, *tert*-, *cis*-, *trans*-

ローマンとするもの: pH, Rf, ¹⁴C, Ag⁺, Ca²⁺, bis-, iso-, homo-

スモールキャピタルとするもの: D-, L-, DL-

12. 印刷上の指示

誤読, 誤植の恐れがある場合には, 原稿に赤で適切な指示を加える必要がある。

付記 特別な事情により, この原稿の書き方と異なる様式で執筆された論文については, 著者の申し出に基づき, 研究成果委員会で協議して, その様式を認めることがある。